

～ 復原組立の様子 ～

小郡市指定有形文化財

旧松崎旅籠油屋  
復原組立現場一般公開



1. 耐震補強の鉄骨  
耐震診断を実施し、大地震時に倒壊する恐れのないよう、内部に補強鉄骨を組み入れています。



2. 軸組（構造的な部材）の組立  
再用する部材は元の位置に、修理取替や復原で補足する部材と共に組み立てました。



3. 屋根の組立  
茅葺屋根下地の扱首（サス、合掌）を組みました。



4. 茅葺屋根下地の竹組み  
茅葺屋根の下地竹は従来の工法に倣ってわら縄で締めました。



5. 軸組、屋根組完了  
油屋の骨格が出来上がりました。



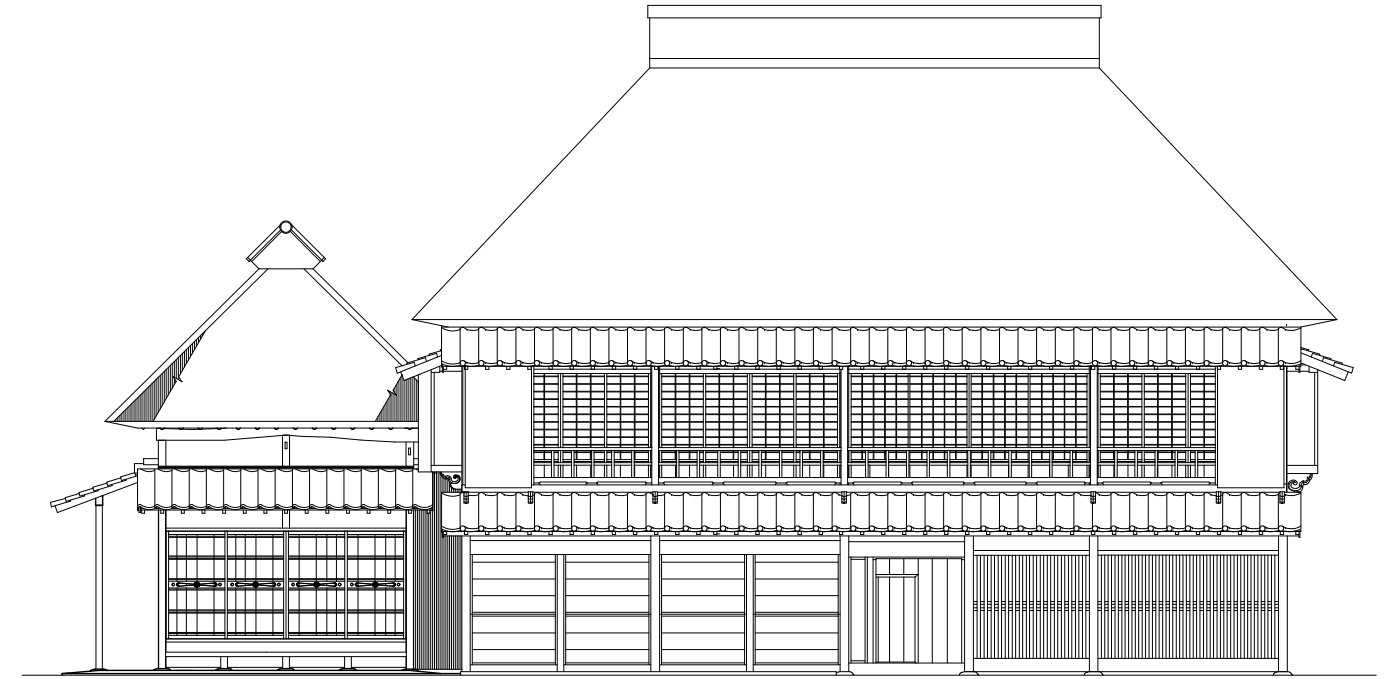
6. カマドの製作  
1階土間奥の部屋にカマドを復原整備しています。



7. 1階内部  
2階床組や土壁が塗られ、内部も出来上がってきました。



8. 正面外部  
正面の旧薩摩街道に面して幕末の姿が徐々に現れてきました。



中油屋（修復完了）

油屋（現在組立中の建物）

油屋の歴史と今回の修理

江戸時代、宿場町として栄えた松崎宿は薩摩街道の筑後国北端に位置し北は山家宿、南は府中宿（現在の久留米市高良大社の麓）に至ります。慶応元年(1865)の資料には総戸数 129軒で旅籠が26軒あったことが記されていますが、油屋はその中でも松崎宿に唯一残存する江戸時代の旅籠です。

敷地南側の「油屋」と呼ばれる主屋と、その北側の「中油屋」と呼ばれる座敷の二つの建物から成り立ち、旧薩摩街道に面して建っています。

当時、油屋は一般の宿泊客を、中油屋は身分の高い人を泊めるのに用いられました。中油屋は明治になって参勤交代や宿場制度が廃止されるに伴い身分の高い客を泊める座敷としての存在理由が薄れ、その後(道路に面した)正面を2階建てに増築しました。(現在その2階は幕末復原により撤去)

油屋は旅籠として昭和初期まで経営が続けられ、戦時中は大刀洗航空基地技能者養成所の独身寮、終戦時は帰国を待つ朝鮮人家族の寮、戦後は芝居小屋や食堂、電器店などとして使用され、この間多くの増改築が行われました。

平成3年の台風で主屋の屋根が破損したことから、当時の所有者より解体する旨が地元の方々の知るところとなり、同年地元の松崎区から油屋の保存要望書が提出され、平成4年に所有者から市へ寄贈されました。平成8年には当時の九州芸術工科大学によって初めて建築学的調査が行われ、厳密な建築年代は不明だが、18世紀後期の数少ない大型旅籠建築としてその価値が認められ、平成13年度に市の有形文化財に指定されました。

油屋と中油屋は、近年老朽化が著しくなり、雨漏りや部材の破損、傾きなどが生じて非常に危険なため、平成22年度から修理に着手、平成24年度からは全解体修理を行っています。解体中は詳細な調査が行われ、油屋がたどった様々な歴史や昔の姿が明らかになりました。油屋が建てられた後、中油屋が嘉永二年(1849)に上棟、その後の文久〜慶応頃に油屋を大改修した可能性があることが分かりました。

これらの調査結果を元に今回の修理では二つの建物を幕末期の姿に復原することとなりました。

発注者 小郡市

設計監理 公益財団法人 文化財建造物保存技術協会

復原組立 株式会社 島崎工務店